

平成27年度日本海学研究グループ支援事業
研究成果の概要

日本海沿岸に残る舟小屋の構法・立地・ 使い方に関する研究

香川大学工学部 釜床美也子

研究の背景と目的

日本海沿岸には、53の集落において、木製の舟を収納・保護する目的でつくられるようになった舟小屋が現存していると言われている(2000年調査)。太平洋側に比べて干満の差が少なく、冬期は降雪量・降雨量が多いため日本海側で舟を守る小屋が発達したと見られ、日本海の漁村文化の象徴とも言える重要な建物と言える。日本での分布は青森から長崎まで広範囲にわたるが、こうした舟小屋はアジアでもほとんど見られないとされている。しかし現在、近代漁港の整備、生業や家族形態の変化、材料や職人不足からのために、舟小屋を継承することは困難になっており、損失も急速に進んでいることから、緊急性の高い研究対象と考え、調査を行った。

舟小屋の建物に関する既往研究は散見されるが、いずれも各地の個別の事例報告や写真掲載に留まっており、日本海沿岸部を対象とした包括的な調査はなされておらず、具体的な構法の詳細も不明である。そこで本事業では、日本海沿岸部に現存する舟小屋の材料・構造・立地・建物の使い方について、広域の現地調査により事例収集を行い、その比較分析により、建築的・文化的特徴の全体像を把握することを目的とし、研究を行った。

研究の方法

研究期間は平成26年度～平成27年度である。平成26年度は、特徴的な構法や配置が見られると思われた三方五湖、奥原、岩車、寺家、木場潟、の福井から石川に位置する5集落、愛媛県西宇和郡伊方町大佐田、長崎県対

馬市峰町青海にて事例調査を行った。そうした広範な調査により各地の構法の豊富なバリエーションを示すことができたと言えるが、課題として、そうした集落の個別の構法調査の数を増やすだけではその成立背景まで指摘するのは困難という点が見えた。そこで平成27年度は、点としての個別の事例調査だけでなく、そのエリアの周辺集落においても舟小屋の有無を調べる面的調査を行い、その半島、湾内、島単位での立地や生業、使い方、配置の差異を確認する方法をとった。

そうした面的調査を行ったのは、下記の4エリアである。

- ・隠岐諸島島後(島根県隠岐郡)
- ・若狭湾(京都府舞鶴市)
- ・佐田岬半島(愛媛県西宇和郡)
- ・三方五湖(福井県三方上中郡)

沿岸の集落ごとに複数の年配者に舟小屋の有無を尋ね、舟小屋をつくらない場合はその理由についてヒアリングを行った。ヒアリングで遡れるのは60年程度までであるが、これまで既往研究でも実施されていなかった舟小屋が既に失われた集落の実態を加えることができる考えた。

また、平成26年度同様の個別の事例調査として、新たな構法が見られると思われた下記の3カ所で引き続き実施した。

- ・伊根(京都府与謝郡伊根町)
- ・泊(富山県氷見市)
- ・豊島(広島県呉市豊浜町)

いずれも①図面作成、②小屋の使い方や施工法のヒアリング、③写真や映像による記録、を実施した。本稿では、特に新規に実施した舟小屋の有無に関する成果について報告を行う。

隠岐諸島島後(島根県隠岐郡)

隠岐諸島の島後において、島根大学小林研究室との合同調査により作成した舟小屋の分布図を図1に示す。舟小屋は島北東部の各集落と南西部の都万にのみ見られることが分か

り、必ずしも舟小屋がつくられるわけではないことが分かった。舟小屋をつくらなかった各集落においてその理由をヒアリングした結果、強風や高波により舟小屋が建てることのできなかつた（油井、浜那久）、場所がなかつた（油井）、舟は家まで引き揚げたので不要だった（長尾田）、入江が深いので舟が流される心配はなかつた（加茂）、舟は川に繋いだため舟小屋は不要だった（北方、重栖）、という理由が聞かれた。隠岐は日本海側としては比較的雪も少ないため、雪が舟に積もったとしても、舟を海に停めたまま雪降ろしをすることで対処できたという。



写真1 都万の舟小屋

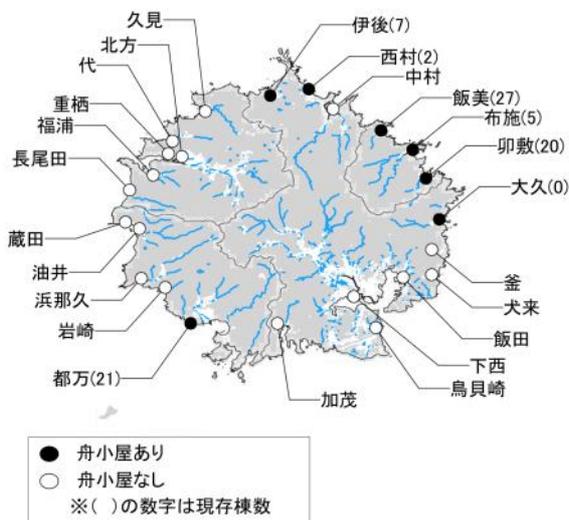


図1 島後の舟小屋の分布

隠岐の舟小屋の構法は、有名な移築された都万のものはすべてボルトを使用したトラス屋根で、新しい小屋組だったのに対し(写真1)、飯美において、1棟だけ杉皮葺きに石を載せた構法が現存していた(写真2、3)。ヒアリングによれば、隠岐の舟小屋はもとはすべて杉皮葺きであったという。

集落内の主屋と舟小屋の位置関係は、沿岸部の浜沿いに集落が立地することが多いため比較的近い。集落部が高台にある伊後のみ、舟小屋だけを浜沿いに独立して建てていた(写真4、5)。



写真2 舟小屋正面(飯美)



写真3 舟小屋の杉皮葺き(飯美)



写真4 小屋のすぐ山側に集落が立地(卯敷)



写真5 離れた浜に小屋のみが立地(伊後)

若狭湾(京都府舞鶴市)

若狭湾には伊根があるが、エリア内の他の地域の舟小屋の構法と比較し、分析されたものは少ない。伊根は2階建ての舟小屋の2階部分を部屋とし、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。湾を隔てた三浜、野原、成生、田井、にて舟小屋の有無の調査を行った結果、いずれも舟小屋は現存しており、舟小屋の2階を部屋とした事例も確認できた。このエリアは稲藁やススキの茅葺き屋根であったことが分かっているが、その遺構は三浜で唯一1棟叔首の小屋組が残っていただけで、すべて建替えられていた(写真6)。田井でのヒアリングによれば、20年ほど前までは藁葺きの舟小屋が残っており、壁は竹や

藁でつくられていた。軒高は藁葺きの時には舟がぎりぎり入るだけの高さだったというが、現在見られる大正以降に建てられた舟小屋は軒高を高くし、壁は掘立柱から土台をまわした貫構造へと移行している(図2)。



写真6 元茅葺きと見られる舟小屋(三浜)

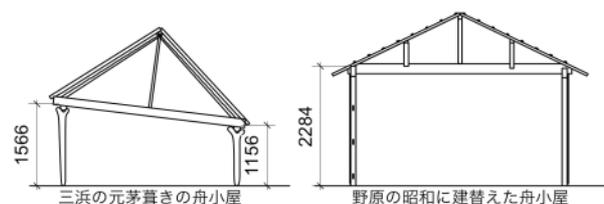


図2 伝統的な茅葺きと新規構法との違い

このエリアの舟小屋に格納される舟は、10月～1月の間にアワビ、サザエ、ワカメの採藻、採貝の他、1本釣りなどに使用される。専門の現役の猟師が定置網の合間に行くだけでなく、漁を引退した年配者や兼業者が行うことも多い。田は少なく、ほとんどが漁家であった。

舟小屋の梁間は、所有する舟の大きさと数により決まる。大きさは大小2種類、数は1軒が1～2艘所有している。そのため、1艘びき、2艘びき、1艘半、という規模がある。

木舟の時代には腐食防止のために舟は毎日舟小屋に戻されていた。小屋裏は漁具の収納空間だったと見られる。舟小屋前の干場ではワカメや網が干されていたが、舟の出し入れの邪魔になるため現在は干場も殆ど残っていない。田井では舟小屋の土地は宅地よりも高

く、2棟の舟小屋を持つ家もあれば、漁をしたくても舟小屋がないためにできない家もあった。あくまで1軒で1つの舟小屋を所有し、2戸で1棟という習慣は無かったという。

舟小屋は浜に隙間なく建てられるため、現在のように浜で横に行き来できることはなく、伊根と同じく主屋と舟小屋は海に直行して連続して建てられ、各家で主屋から海まで舟小屋の中を歩いて行き来していた。その形式が残るのは三浜と田井で、野原は昭和の火災による建替えや漁港の整備、集落中央の道路の整備によりその配置は殆ど失われている。田井でも伊根と同様に舟小屋の際に海がせまっており、岩場に建つ舟小屋もあったが、防波堤が造成されて以降、現在のような浜に舟小屋が建つ景観に変化した（写真7）。



写真7 砂浜ができた田井

佐田岬半島（愛媛県西宇和郡）

佐田岬半島に共通する舟小屋の特徴は、対馬と同様に格納する舟が肥料のホンダワラを採る農耕目的で使用されていた点である。佐田岬半島においても所有の有無を確認した結果、半島内でも農耕を主とした平磯、松、大佐田、足成、には舟小屋があり、二名津、井野浦、釜木、ではつくられなかったことが分かった。

例えば平磯の場合、半農半漁だったが農の方が主で、海を隔てた向かいにある畑まで舟

で通り、舟は肥料と収穫物の運搬に使用されたという。もとは各農家が1艘舟を所有していたため舟小屋は30棟ほどあり、20年ぐらい前まで数棟が残っていたが、現在小屋組は全て失われて壁の石積みだけが残っている。舟の出し入れのために海に妻側を向ける配置が一般的だったが、浜は限られているため、海に平行に建てた家もあった。今は砂浜で行われる盆の民俗行事のみが受け継がれている。もとは集落から陸続きだった舟小屋のあった浜は、現在干潮時にしか行くことができない（写真8）。採藻されたホンダワラは各家の舟小屋の前に干され、乾燥後に舟小屋に入れられていた。舟小屋の木部には耐久性のあるニレが使われた。舟小屋の古い構法は、ヒアリングにより、平磯、松、足成で写真9のように、石積みの壁に茅葺きであったことが分



写真8 舟小屋の石積みのみが残る浜



写真9 足成の舟小屋（昭和32年撮影）
（村上節太郎写真資料目録より引用）

図3 大佐田の舟小屋（フナグラ）の所有関係

かったが、現存するのは平磯の石積み部分のみであった。

また、こうした調査により佐田岬半島全体においても平成26年度に調査した大佐田のフナグラが特異な事例であることが明らかとなったため、特にその2軒で1棟を所有する文化を持つ所有関係について補足調査を行った(図3、4)。その結果、舟小屋31棟のうち、7棟は前後で所有者が異なることが分かった。松で建替えられた舟小屋は日本海側で一般的に見られる舟小屋の構法であるため(写真10)、構法や所有関係に独自の展開が見られる大佐田の類似の事例や成立背景については、更なる調査が必要と思われる。



写真10 建替えられた松の舟小屋

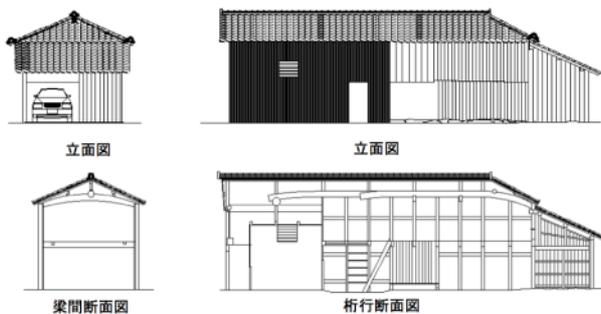


図4 大佐田の舟小屋（フナグラ）